

# 長野便教会 会報

平成18年8月21日(月)第1号



## 「足下のゴミ一つ拾う勇気」～「長野便教会」発足に寄せて～

便教会世話人・高野 修滋(愛知県碧南高等学校)

「長野便教会」発足、おめでとうございます。平成13年8月に誕生した「便教会」に、また一つ灯火が点じられ、教育の先行きに明るさが増しました。私事になりますが、平成9年9月、西三河掃除に学ぶ会に初参加しました。その掃除との出会い・感動が今日の「便教会」の原点です。この便器磨き(トイレ掃除)で私の生き方、教師としての在り方が大きく変わりました。身を低くし、手足を汚しての作業は最初、我慢の限界でした。が、時間が経つにつれて、今まで感じたことのなかった心の穏やかさ、温かさが身体全体に広がりました。この気持ちを生徒にも是非味わってもらいたいと願って、掃除の様子と感動をできる限りリアルに語り、生徒の反応を待ちました。すると生徒は響き、動いてくれました。その時の自分は「教える側、指導する側=教師」という立場を超えて、一人の人間として訴えていた気がします。「先生」と呼ばれていつの間にか高慢、傲慢になっていた自分、自分に対する今までの生徒の態度は「私自身を映し出していた鏡」であること、生徒が教師としての私を育ててくれていたことが、掃除で自分の内面を見つめ、発見でき、気づけるようになりました。掃除は下座行です。肩書き、プライドとは全く関係なく、一人の人間がどう生きているのかが試される「場」であります。ただ身を低くし実践することで高慢な殻を壊すことができ、謙虚になり学ぶ姿勢が生まれ、気づく心が育てられます。

教育基本法第1条に「教育は、人格の完成を目指し...」とありますが、「教師は生徒にどう接するべきか?」という方法論が大切ではなく、「生き方を示す姿勢、見せる実践」が教師に欠かせない姿勢であると確信しています。子ども、若者は、大人、教師のすることを見て真似をし、育ちます。教育の最大のサービスは、教師としての人格の完成を目指すことです。具体的には、生徒がいつも見ている教室、学校環境を美しく整える(整美)ことです。そのサービスを維持するのが教師の最大の責務であります。「そんな簡単なこと...」と思いますが、「足下のゴミ一つ拾う勇気」がなければできないことです。そんな勇気のない教師に何ができましようか。大人・教師は見られ試されています。

「便教会」は「教師の教師による教師のためのトイレ掃除に学ぶ会」で、その根幹には『ただ身を低くし実践あるのみ』の姿勢があります。太田智明先生が「便教会」の主旨に賛同され、大いなる勇気の一步を踏み出されたことを心より称賛し、「長野便教会」のますますのご発展をお祈りいたします。善友力を発揮し、助け合って成長しましょう。

## トイレ掃除の魅力

実践女子大学人間社会学部・井上 潤子

「すごく綺麗になったねえ。」

私は、トイレ掃除をやり終えた時に自然と出るこの言葉がたまらなく好きです。トイレ掃除をすると、トイレが綺麗になるだけでなく、新たな自分と出会え、そして、自分の気持ちも綺麗になるような気がします。これが、私にとって、トイレ掃除の魅力であり、トイレ掃除に病み付きになる理由です。今回行われたトイレ掃除大会に参加して、改めてトイレ掃除は素晴らしいなぁと感ずることができました。

トイレ掃除に限らず、普段の生活の中で、掃除をするというのは当たり前の事ですが、しっかりと掃除をするというのは、実は難しい事なのだと思います。掃除というのは日常生活に大きく関わっていると感ずいます。どのように関わっているのかというのを説明するのは、難しくて何と言っているのか分からないのですが、掃除をしっかりすることによって、自分の気持ち、心が変わるのです。この気持ちは、掃除を実際にするだけでしか味わえないと思ひます。だから私は、この気持ちを多くの人に味わって欲しいなぁと強く思ひます。

今回のトイレ掃除を通じて、私は、また少し違う自分に出会えたと思ひます。今回の大会に参加して、トイレ掃除の魅力に触れられて本当に良かったです。皆さん有難うございました。

---

## あぁ、なつかしきトイレ掃除

信州大学教育学部・小林良太郎

このたび、掃除に学ぶ同好会に参加し、心を洗われました。

私がトイレ掃除を本格的にしていた頃から、もう4年ほどの月日がたちました。そのころと比べると今の私は、いろいろなことを経験し、自分自身や自分を取り巻く状況も大きく変化してきたはずですが、ある情熱は決して変わることがなかったようです。裸足でトイレに入った瞬間、鼓動がバクバク、ワクワクが止まらず、「はやく、はやく、こいつらを光らせたい！！」そう思ひ、便器に向き合いました。そして、4年ほど前、中学生の頃、それも、この世界を初めて知ったときの気持ち、この世界を突き進んだときの気持ちがよみがえりました。私のトイレ掃除への情熱は、変わることなく今でも燃え盛っているのだということがうれしかったです。

以前、ふと思っただけがあります。それは「トイレ掃除から何がわかり、何を得ているのだろう」ということです。そして、今はある答えに辿り着きました。トイレははじめ、決してきれいな状態ではありません。ですが、研げば必ず輝きます。これは人と同じではないかとふと思ひました。人は必ず輝ける。いくら今がきれいでなかつても、いくら今が汚くなってしまっても、研げば必ず輝く。そのことをトイレ掃除は教えてくれているのではないかと、そして、このことが教師を目指す私にとって大切なのではないかと。そう考えました。

これからもトイレ掃除を長く続け、多くのことを学び、教師を目指す者として、ひとまわりもふたまわりも成長していきたい。そう思ひました。

---

## 第一回便教会レポート

富山大学人間科学部・黒岩 誠

### 1、トイレ掃除に参加させていただいて・・・

今回のトイレ掃除の会をとおして私は三つの大きなものを得ることができました。

一つ目は「ひとつのものにとらわれず周りを見渡すことのできる心」です。それを強く感じさせられたのは会を始める前の朝のできごとがきっかけでした。私達が集合場所に行くとなんと先に来ていた先生方が学校の花壇の周りにはえている草刈をしていました。私はトイレ掃除の会というだけにトイレ掃除をするということは頭の中にありました。でも頭の中にあつたのはただトイレ掃除をするということだけでした。

二つ目は「おごることなく謙虚にそしておおらかに人に接することのできる心」です。イエローハットからこられた方々は自分たちがおえらいさんだということを微塵も感じさせないような態度で私たちに接してました。後からおえらいさんだということを聞かされて正直かなり驚いたほどです。

そして、三つ目は自分が実際にトイレ掃除を行っていくうえで得ることができました。それは、「自分自身をみつめ直し自分自身に問う」という能力です。私は今回トイレ掃除をしながら様々なことを考えました。「中学のときなぜトイレ掃除を始めたのか」「トイレ掃除にとって何を得たのか」「私は

大学に入ってから授業や生活をとおして何を学び、どう自分に生かすことができているのか」おそらく、中学のときの自分もあのときはうまく言葉にできなかったのですが、トイレ掃除をとおして三つ目で紹介したようなものを得たのだと思います。しかし、トイレ掃除から離れ月日がたつにつれ、心の奥に勝手にしまい込んでいたのかもしれませんが。今回この「便教会」に参加したのもはじめはただなんとなくだと思っていたけれど、大学生になり自己責任、自由、自分を抑えるものは自分だけという世界の中で毎日おかし楽しく生活している中で、何か忘れかけていたものに心のどこかで気づき、自分自身に呼びかけたからなのかもしれません。今回の「便教会」では様々な人に出会い、様々なことを思い出し、そして様々なことを学ぶことができとてもよい経験になったと思います。

## 2、総会に参加しての感想

今回総会に参加させていただいて、教育者を目指す自分としてはとてもためになるものとなりました。大学でも教職にかかわる授業や学生による授業参観などが行われていますが、このような場で学ぶことや、自分が得ることのできるものは、ほとんどが技術的なものばかりで教師の内面的な心情や本音を聞いたり読み取ったりするのはかなり難しいものがあります。

しかし、総会のような実際に現役バリバリの教師の方々と対話をし、今までで苦労したことやこうしたらうまくいったなどということを知ることができ、授業ではなかなか得ることのできないことを体験することができ非常によいものでした。

先生方の様々な工夫の仕方などを聞いて感動し、自分もいくつか目標を持つことができました。

---

---

## 再会

## 信州大学工学部・小嶋 佑季

7月29日に行われた「中野・下高井掃除に学ぶ同好会」にて、久しぶりに素手でトイレ掃除をした。中学卒業後は一度も機会がなかったので、本当に久しぶりであった。正直、掃除についての記憶はあやふやで、多少の不安を残しながら会はスタートした。ところがいざ掃除が始まってみると、不安を感じる暇もない位の沢山の記憶が呼び起こされてきた。掃除のやり方、中学の清掃の時間、すっきりとした達成感…。ただただ綺麗にしたいと思いながら便器を磨いた。中学の時と同じ感情がそこにはあった。やはり2時間という時間は短く、あれだけの汚れを落とすには不十分であった。しかしながら、この短い時間でも確実に成果はあった。空気が初めとは全く違っていた。周りの先生方の表情も全く違っていた。トイレだけでなく、参加者も磨かれていたように思う。



更に綺麗にし、また綺麗さを保つには毎日の積み重ねが必要である。中野小学校のトイレを担当するのは中野小学校の子どもたちであるが、自分の心を綺麗にするのは自分自身以外の何者でもない。正直、高校時代は汚れたトイレに抵抗感を感じていたものの、それに目をつぶっている自分がいた。自分の心が汚れてしまっていた。中学での経験は一体何だったのだろう…この日をきっかけに、また少しずつでいいから、自分を磨き続けていきたいと思った。

これから多くの学校でこのトイレ掃除が広まっていくと思うと、なんだかワクワクする。

長野便教会の広がりにもワクワクする。大げさかもしれないが、いつかはトイレ掃除が日本を救う、そんな日が来ることも有り得るのではないかとさえ感じられてしまう今日この頃。最後に、私にトイレ掃除との出会いを与えて下さった多くの方々に感謝したい。本当にありがとうございます。

---

---

## 第一回『中野・下高井掃除に学ぶ同好会』に参加して

## 信州大学教育学部・小林 和仁

テスト期間の真っ只中、日頃の計画性の無さのおかげで連日徹夜の日々を過ごしていました。そんな中で、今回の『中野・下高井掃除に学ぶ同好会』に参加させてもらって、久々にあんなにすがすが

しい気持ちになれたと思います。徹底的にトイレ掃除をしたのは中学生のとき以来だったので、約三年ぶりでした。掃除を終えた後のMy便器への小便是格別でした。気持ちよかったです！！

先程、トイレ掃除は中学生のとき以来というふうに書いたのですが、本当は自分の中で高校でもトイレ掃除を徹底的にやりたいという思いは持っていました。そんなときに、高校へ入学して初めての掃除担当が部室棟のトイレになりました。初めての掃除のとき、まだ名前もわからないようなクラスメートと一緒にトイレ掃除をしているなかで、ちょっと気合いを入れて便器の中に手を突っ込んで掃除を試みました。案の定、みんなは引いていました。道具も全く充実していませんでしたし、僕のやり方や、みんなへの説明が悪かったせいだったのかもしれませんが、みんなやろうとはしませんでした。その時にぼくは、「あのトイレ掃除は南宮のあのメンバーでやったからあそこまで出来たのであって、自分1人でこの現状を変えようとしても無理なんだ。高校でトイレ掃除をやろうとすること自体が間違っているんだ。」と書いていました。それからというもの、表面的な軽い掃除をこなしていききました。そのことは今まで仕方の無かったことだと思っていました。しかし、今回の同好会を参加した後にこういった振り返りをしている中で、過去の自分に違和感を覚えました。自分はどこかで逃げて妥協したんだ、ということに気が付きました。イエローハットの皆さんをはじめ、多くの先生方は自らトイレ掃除に飛び込んで、広めていこうとしています。それはそう簡単なことではないと思います。しかし、すこしでも多くの人にやってもらいたい、すこしでも多くのことを学びたいという思いを強く持ってやっているようにぼくの目には映りました。中には掃除後のミーティングで感極まってしまい、言葉に出来なくなってしまう先生もいて、本当にアツい人たちだなと感動しました。

自分の大切にしたいこと、誰にも譲れないことを周りの人に伝え続けるということは端から見れば体裁が悪いかもしれませんが、でも、それに共感してくれる人はきっといるんだろうなあとこの同好会から強く感じました。近い将来、『でっかい教師』になることを夢見ている自分にとってのターニングポイントと成り得る一日になりました。みなさんありがとうございました。

---

---

## 久しぶりのトイレ掃除

上田市立第二中学校・島津 昌幸

自分が白馬中で生徒だった頃に素手でトイレ掃除をしてから約10年が経ちました。会場の中野小学校に向かう車の中で、久しぶりのトイレ掃除にわくわくする気持ちと、教師生活二年目となった自分がトイレ掃除を終えた時に何を感じるかということやずっと考えていました。今年から担任も持たせて頂き、毎日の忙しさに追われて日々の授業や校務分掌も何かと中途半端になってしまうことが多かったこの頃。トイレ掃除を行う中でそんな今の自分と向き合ったり、また無心になって汚れを落としたり、二時間という時間をとても短く感じるほどに没頭することができました。終わった後に自分が磨いたピカピカに光る便器や壁を見て、久しぶりに「あーやりきったな！」という達成感と満足感を得ることができ、本当にすがすがしい気持ちになれました。最後の感想発表で高社中の先生がおっしゃられていたように、スポンジだけでは落ちない汚れを様々な道具を用意してそれらを駆使しながら落とすということ、それはまさに授業における「手立て」であり、「教材研究」だということや学ぶこともできました。自分が磨いた便器を見たときのように、毎回の授業や学校の一日を終えた時にしっかりとした達成感を得られるような、そんな努力をしていかなければならないと感じさせられた今回のトイレ掃除でした。

自分のクラスは分担ではないので今はトイレ掃除を行っていませんが、機会を見つけてトイレ掃除をしたり、トイレ以外の教室や外などの場所でも生徒がのめりこんでいけるような清掃の方法を考えていきたいと思っています。今回のトイレ掃除に参加して学んだこと、「達成感」や「満足感」を生徒にも伝えていけるようこれから頑張りたいです。

---

---

## 「ファインダー越しに」

小布施町立小布施中学校・中村 文成

私は今回、記録を担当していたため、参加された方が一生懸命に掃除をされる姿をビデオにおさめていました。掃除の様子をファインダー越しに見ていると、便器と体の距離が次第に縮まっていくのがよくわかります。素手で掃除をすることを頭ではわかっていても、最初はどこか抵抗感がありますし、実際に臭いもしますから、どうしても腰が引けた状態になってしまいます。それが時間の経過とともに、便器に頭を突っ込むようにして普段は見えない部分の汚れをとろうとする姿にかわっていき

ました。

私は、とかく頭で考えることが優先して実際の行動が伴わないことが多々あります。「どうせうまくいかないだろう」とか「うまくいきそうな方法が見つからないから」と、できない理由を先に考えてしまうのです。しかし、実際にトイレ掃除をしてみると、高野修滋先生が言われる「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして実践あるのみ」という言葉の重みや実践からしか得られない充実感を感じることが出来ます。

2学期から生徒とともにトイレ掃除に取り組みたい、そう強く思う一日でした。

## 新たな一步

## 中野市立中野平中学校・青松美奈子



中野平中学校のトイレ掃除より

私がトイレ掃除に出会ってから三ヶ月が経ちました。毎日の清掃時間に、生徒とともに便器に向かってきました。三ヶ月前の自分とは確実に何かが変わってきているを感じています。それは便器の汚れが少しずつ落ちていくように、地道な積み重ねが少しずつ結果になっているのかなと思います。

志をもった先生方によって長野便教会が立ち上げられ、私も一員に加えていただくことができました。先生方の姿に学ばせていただき、私も自分の思いや信念を自分の姿から発信できるようになりた

いと強く思うようになりました。また、学生のみなさんとともに学んでいけることにもとても期待しています。

私にとってこの三ヶ月間は、自分自身が変わるためにあったものだと感じています。これからは、私が体験して得たことを私自身の姿を通して生徒に伝えていきたいと思います。新しい一步を踏み出して、頑張っていこうと思います。

今日の掃除の時間に、青松先生がトイレの便器の中の黄ばみが落ちるヤスリみたいの（注：サンドメッシュのことです）を持ってきてくれたので、それを使って掃除をしました。先生が素手で便器の中に手を入れて掃除をしていたので、私も素手でやりました。最初はちょっと気持ち悪かったけど、掃除をやっているとそんなこと忘れてしまって、黄ばみを落とすのに一生懸命になっていました。素手の方がやりやすいし、きれいになったときの気分がいつもより違う感じがしました。これからできるところは素手でやってみようかなと思いました。（中野平中学校1年生の佐野由佳さんの生活記録）

## 第1回長野便教会に参加して

## 中野市立南宮中学校・武田 光枝

以前から、太田先生がトイレ掃除をクラスの中核活動としてやっていて、子供たちも誇りに思っていることは知っていた。しかし、あのトイレ掃除が15分で終わるはずもなく、掃除終了後の5分間でトイレに行こうとしている子供たちがトイレに行けず、困ったことだと思っていた。一生懸命やっているのはわかるのだが、そのときの私は、あのトイレ掃除に込められた思いは知らなかったの、そんなふう感じていた。

昨年度、生徒会の顧問として生徒会長の願いである縦割清掃（1～3年生の混じった各委員会ごとの班）の実施に力を入れた。他校のすばらしい清掃ぶりを取材し、自分たちもあんな掃除がしたいと思い、そして創立50周年ということもあって、先輩方が大切にしてきた校舎をきれいなまま後輩に残していこうとの思いを胸に、3年生が中心となって縦割清掃をした。全校生徒のその集中ぶりは私たちの予想を超えていた。ぜひ、この子供たちに縦割清掃が終わっても本物の掃除ができる子供であってほしいと願い、生徒会活動の柱の一つである清掃についてのお考えを、日本を美しくする会の橋本典明さんに講演していただいた。

すると、橋本さんの話の続きを聞いたがる子供や、送っていただいた鍵山さんのDVDのすごさから、今のこの子達ならやれるかもと思い、クラスの子供たちに鍵山さんのDVDを見せてみた。すると子供たちは、「すごい。やってみたーい。」と言った。これはしめたとはい、掃除分担変更のときにトイレ掃除を希望して、卒業までの半年間、自分たちのトイレと管理棟のトイレをきれいにした。

その後、小布施掃除に学ぶ会で直接鍵山さんのお話をお聞きし、その翌日掃除実習に参加した。初めて、皆さんと掃除をしてみて、便器を磨いてきれいになると、最初気にならなかったところが目に付いて、そこをきれいにする。そのくりかえしでどんどんきれいになる。さらに、隣の人にドライバーを使った技を教えてもらって、こんな汚れまで落ちるのかと驚いた。まさに、トイレも心もきれいに洗われていく思いだった。

そして今回、イエローハットの方々や高野先生はじめ愛知や岐阜からも多くのサポーターの皆さんに支えられて、第1回中野・下高井掃除に学ぶ同好会の掃除を実施することができた。橋本さんには、「第1回にしては生意気だ。」とお褒めの言葉をいただいた。私自身今回は、事務局として裏方に徹しなくてはいけなかったのだが、竹中さんが一人で水漉しを洗っているのを見て、やったことがなかったこともあって、教えてもらいにいってしまった。こんなの無理だ、落ちないよと思っていた汚れまでも「こつこつやるしかないよ。」と諭され、サンドメッシュで爪まで削りながら続けているうちにその汚れがとれた。そして、うまく道具を使えないでいる私に、「代わりましょうか。」と声をかけてくださり、その手付きを見て、立ててこすれば落ちるとわかったとたん、「やらせてください。」と負けず嫌いな私が叫んでいた。人の姿を見て学ぶことが大きいなあと思うとつづく感じるとともに、はるばる長野まで駆けつけてくださった心のきれいな人々と一緒のときを過ごして、すがすがしかった。

また、トイレ掃除の始まる前に、朝早くから草取りをしていると、本の販売に来てくださった池田さんまでも、見ているわけにはいかないと一緒に草取りをされたことにも感動した。ここに集まる人たちすべてが、じっとしていられなくなる、そんな仲間たちなんだと、改めてそのすばらしさに気づかせたもらった1日だった。そして今回、太田先生が担任だったクラスの教育学部に入学者も一緒に参加してくれた。私にとってもともに過ごした子供たちだったので、懐かしいとともに、次回は大学の友達に広め、ぜひ信州大学でトイレ掃除をしようと約束をして別れた。

まだまだ、長野便教会のメンバーは少ないし、活動も組織的にはできないが、それを逆に利点と考え、臨機応変に、そして歩みは遅くとも無理せずできる範囲で続けていこうと皆で確認した。そうすればきっと、長野県の子供たちや学校も変わっていき、次第に心のきれいな県民ばかりになると思えるのである。みんなが他者を思いやり、心のきれいな人ばかりなら、どんなに気持ちよく安心して暮らしていけるだろう。そんな日が来ることを信じて、今自分にできることをやっていきたい。意を決して長野便教会を設立した、パワーとアイデアいっぱい太田先生に感謝するとともに、すばらしい仲間たちと活動していけることを楽しみにしている。

---

---

## 「掃除に学ぶ会」に学ぶ

中野市立中野平中学校・太田 智明

3月に小布施で「長野便教会」の設立を宣言し、6月には中野・下高井教育会の同好会に「掃除に学ぶ同好会」を加えていただくことになり、両方の事務局を任されることになった。平成18年を迎えた半年ほど前には、全く想像もできなかった自分の姿である。本来の校務とは全く関係のない余計な仕事であるから、学校の仕事にしわ寄せが行くようでは、本末転倒である。だから、睡眠を削ってでもやらなければならないし、かといって全く眠らないわけにもいかないから、いかに校務も事務局も効率よく仕事をして両立させるかが問われてくる。そこに、今回の私の学びの場があると心得て、ことに当たってきたつもりであった。しかし、やはり当日が近づくに連れてあちこちに不行き届きがあり、参加された皆様に多かれ少なかれご迷惑をおかけしてしまった。こうした場面では、この場を借りて・・・などと、よく言われることだが、私がこの場で頭を下げて、その方々の時間はもう戻ってこないわけだから、かくなる上は「不言実行」。次回の運営で取り返していくしかないと思心に誓っている。

さて、今回初めて会を運営する側にまわってみて、見えてきたことがいくつかある。

ひとつ目は、掃除に学ぶ会の皆様の「レスポンスの速さ」である。

今までも、掃除の会が終わるたび、その翌日から、名刺交換をした方々から次々と御礼のお手紙が舞

い込むことは知っていた。その姿に私も何とか追いつきたいと、何かことが終わるとすぐにお礼状を書くように努めてきた。しかし、今回びっくりさせられたのは、イエローハットにご案内がついたと思われる、その日の夕方にはもうFAXで参加者のお名前をお申し込みいただいたのだ。誰が参加するかを、案内がついてから検討しているのではなく、案内がつくまでに目星がついていて、案内が来るのを待っている状態でこそできる、レスポンスの速さだと思った。日本を美しくする会中部ブロック長の竹中義雄様にも人数配分や道具の数など細々したことを何度かご相談したが、翌日には確実にお返事をいただいた。小布施掃除に学ぶ会の木下豊様は、メールが来るのをPCの前で待っているのではないと思われるくらい、常に的確なお返事がすぐに返ってきた。その反面、学校関係の申し込みはどうだったかというところ…お察し下さい。それはもちろん、学校の子どものことが最優先されてしかるべきなので、こちらを優先しろというつもりはないのだが、掃除に学ぶ会の皆様も暇で暇で、これだけを仕事にしているわけではないはずだ。それでもこのレスポンスなのだ。どちらがあるべき姿か。ここにも「鍵山哲学」が見え隠れしている。

二つ目には、わが長野便教会の先生方の姿である。

まず、青松美奈子先生（中野平中）。彼女には、本大会も見越してプレ大会の受付をお願いし、名札づくりもお願いしてあった。そして、迎えたプレ大会の7月23日。私のチェックミスから、参加された先生のお名前に間違いがあることが発覚した。私は焦ったが、涼しい顔をして「予備が用意してあります」と言って、さっと手書きの名札を作ってくれたのだ。私は、「この名簿で名札を作ってね」とは言ったが「予備も用意しておいてね」とは頼んでいない。まさに、「一を聞いて十を知る」その先まで読んで行動する姿に、頭が下がった。その上、名札をはずすときになって気がついた。ただの厚紙だと思っていたのに、四方をきっちりと目立たない透明なテープで裏打ちしてあったのだ。これも「すごい！」ということ、本人は「いえ、この名札はまだ欠陥があることがわかりました。次の本大会までに改良してきます」と言うのだ。皆さんはそんな名札を胸に着けていたのですよ。知らなかったでしょ。それから、武田光枝先生（南宮中）と中村文成先生（小布施中）。お二人には本当にいろいろとお世話になって書ききれないが、本大会の当日、二人には事務局としていろいろ対応してもらおうと思って掃除場所を分担せずにフリーでいてもらう予定であった。ところがである。「あれ、二人はどこに行っちゃったのかなあ」と思ったら、いつの間にか小便器の目皿を黙々とこすっているのである。「それじゃ事務局にならないじゃん」と怒ろうかとも思ったが、あまりにも二人の真剣な表情を見ていたら「やっぱり事務局じゃなくて、掃除をしたいんだなあ。しょうがないなあ」と思わずプツと吹き出してしまいました。今度は全国大会に行こうね。そしたら掃除ができるから。掃除に学ぶ会発祥の地・大正村でもいいよ。去年初めて行ったけど、ものすごい活気ですから。あと、忘れちゃいけないのは倉島小有美先生（中野平中）。この人もすごいわ。残念ながら本大会には参加でき



かったけれど、この4月から掃除を始めた人とは思えない仕切りぶりで、教育会館のトイレ掃除のリーダーを見事に務めてくれました。青松美奈子先生とともにリーダー初挑戦でしたが、さすが愛知まで行って高野修滋先生に直々に教わっただけのことはあります。ただ者じゃないです。

最後に、書籍の販売に来た金井書店の池田順造様。池田様には、鍵山相談役の4種類の書籍を10冊ずつ、計40冊取り寄せていただき、販売をお願いしてあった。そして会の当日の朝、時間通りにおいて下さり、本を並べながら「先生、この本オレもちょっと読んでみたんだけどさ、いいこと書いてあるわな」とおっしゃった。もうこれだけで池田様のご自分のお仕事に対する姿勢が伺われる。ただ「売ればいい」のではないのだ。その後続けて「どれも同じことが書いてあるわな」と言うあたり、謙遜して「ちょっと」とおっしゃっているけれど、「けっこう」読んだのではないかと思われた。だから池田様は、今日の会がどんな会なのかを察知し、私たちと一緒に草取りを始められたのだと思う。「いやー、先生たちを見てたら、オレだけただ立っ

てちゃ申し訳ないと思って・・・」とおっしゃっていた。こちらこそ、ただ書籍の販売をお願いしただけなのに、一緒に草取りまでしていただいて申し訳ないと思った。その上、お帰りになるときには「先生、オレ今度は仕事じゃなくて、休みとって掃除させてもらおうわ」とおっしゃる。「本当は今日もいっしょに掃除したかったんだけど、店で帰って来いって言われちゃってさ」と。掃除には人を動かす力があることを改めて実感すると共に、池田様のように感じたらすぐ動ける自分であるかどうか。またそれ以上に、自分の”感じる力”を常に研ぎ澄ませていないと、池田様のようなわけにはいかないのではないかと、そのお姿に学ばせていただいた。

気づけば、こんなにたくさん書いてしまった。事務局であるがゆえに、今回の総括というか、編集後記も含めて書いていると思って、お許し下さい。この他にも快く会場を提供して下さいの中野小学校・直江寛志校長先生、休日にもかかわらず学校をあけてトイレの下見に同行して下さいの宮入靖先生、そもそも中野・下高井教育会の同好会として掃除の会を「やりなさい」と後押しして下さい、会長まで引き受けて下さった中野平中学校・三寺勝美先生、教育会館や中野小との連絡を密に取って下さった中野平中学校教頭・小林芳裕同好会副会長先生、そして参会された先生方、我々の記念すべき会報第1号の巻頭言も飾って下さった便教会・高野修滋先生をはじめ、全面的にバックアップして下さいの日本を美しくする会の皆様・・・こうした皆様のお力が結集して、今回の大会がはじめて成し遂げられたのだと思います。本当にありがとうございました。こうした皆様お一人お一人のお姿に学ばせていただきました。自分自身も皆様に一步でも半歩でも近づけるように、今後とも日々努力して参りたいと思います。これからもご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

### 出張ミニミニ便教会 8/25(金) 佐久市立臼田中学校

佐久市立臼田中学校よりお問い合わせがあり、太田が派遣申請をいただきましたので、行ってまいります。4人の1年生と一緒に掃除をしてきます。この様子は、次回の長野便教会会報でお知らせしたいと思います。ご期待下さい。

### 掃除に学ぶ会全国大会 9/2(土)・3(日)

実は8/10が申し込み締め切りでした。ご案内が遅れ、申し訳ありません。ちなみに今年は第6回大会として、宮城(仙台)で開催されます。

### 大正村(岐阜県恵那市明智町)掃除に学ぶ会 10/21(土)・22(日)

「掃除に学ぶ会発祥の地」だけあって、全国大会規模で集まって毎年開催されています。小布施の掃除に学ぶ会の皆さんと一緒にいけないかと相談しています。

### 東京掃除に学ぶ会 11/4(土)・5(日)

ここも規模の大きな大会で、全国レベルを体験できます。築地市場の掃除をするそうです。

### 小布施掃除に学ぶ会・月例会 毎月第2日曜朝6時~8時

8月は13日に北斎館前のトイレ掃除をしました。中村先生(小布施中)と太田が参加しました。9月は10日、長野電鉄小布施駅のトイレを掃除する予定です。武田先生(南宮中)が早々と参加宣言をされています。ふるってご参加下さい。

### 小布施掃除に学ぶ会・年次大会 平成19年3月11日(日) 小布施中学校(予定)

年度末のお忙しい時期ですが、今から予定をあけておいて下さい。

### 掃除に学ぶ会世界大会 平成19年6月

来年は台湾で開催されます。中体連と重なってしまいそうですが、いつかは行ってみたいですね。

記念すべき第1号ということで、第1回に参加された会員の先生方の原稿を全て掲載したら、8ページになってしまいました。今後も、自分の思うところや自校での実践・生徒の作文などを下記あてにドシドシお寄せ下さい。できるだけメールで写真を添付していただけるとありがたいです。よろしくお祈りします。

<問い合わせ先・原稿送付先>

〒383-0046 中野市片塩165 中野平中学校内 長野便教会事務局・太田 智明  
学校TEL・0269(22)4021 学校FAX・0269(22)7647  
携帯電話・090-2238-2934 Eメール・otato2005@yahoo.co.jp